

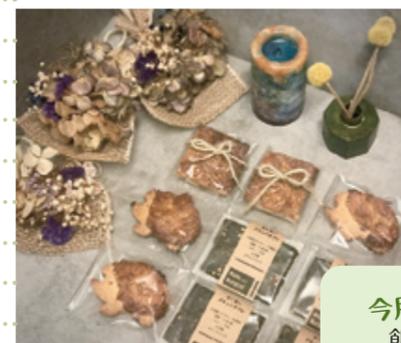
ふれあい館の向かい側、何かが始まる…!

どうも、協力隊の横山です。今年の春に向けて飯館村に人の集う場所を計画中!

今現在オープンに向けて絶賛準備中です。

詳細は追ってお伝えできればと思いますが、村民の皆さんがゆっくり座って友達とお話を楽しんだりするような空間を作りたいと考えています。

オープンまでに施設の中で村民の方と商品開発を行ったり、何かイベントを挟んでいきたいのでよろしくお願い致します。



今月のライター
飯館村地域おこし協力隊
横山 梨沙さん

おいしい飯館！ままでの食卓

生産者の皆さんにおいしい食べ方を聞いてみよう！

栄養価が高く食物繊維も豊富。赤飯やあんこ、お汁粉などに使われ暮らしを彩る食材です。



小豆の巻
あずき

ゆで小豆を冷凍保存するとさっと使えて便利です。

小豆(赤アズキ)は、サヤが茶色になってから収穫し、干してカラカラにします。昔は叩いてサヤを外したようですが、我が家では一つずつサヤをむいています。子どもの頃に親の背中を見ていた作業で、懐かしさがありますね。しっかり干したアズキは、広口の大きなペットボトルに入れ、米を置く暗所に保管しています。ゆで小豆にする時は、炊飯に使っていない古い電気釜を使い、たくさん作って冷凍保存しています。



大東和子さん
(宮内)

直売所に豆類や野菜を出しています。一昨年からは牧草畑にしていた圃場でリンドウの栽培も始めました。



うまい!!

栗ようかん

ゆで小豆と栗と一緒に煮て、好みの量の砂糖、少々塩、水で戻し煮溶かした寒天を加え、タッパーに入れて冷蔵庫へ。食べる時に切り分けます。

渋皮を取った栗も冷凍保存してあるそうです。

ゆで小豆を火にかけ、かき混ぜながら煮ていくと皮ごとつぶれていきます。砂糖と塩少々を加えて、あんこが完成。もち米を炊いて好きな大きさに丸め、あんこで包んでおはぎに。



砂糖は小豆がやわらかく煮えてから加えましょう。

はなれていても

竹之下道子さん(元飯館小学校校長) 福島県福島市在住



保護者から贈られた赤いポロシャツには「わ」の文字。成人式で再会した卒業生から受け取った花束を胸に抱いて。

平成20年に飯館小学校に校長として赴任し、翌年から「エコキヤップ運動」を始めました。資源をリサイクルし、売却益で発展途上国の医療支援を行う運動です。「誰かの役に立てる」と知った子どもたちが自主的に取り組むようになり、集まったエコキヤップは2年間で1トンを超えました。

招いて七夕コンサートを開いたり。あいさつ運動、田んぼづくり、学力向上にも力を入れました。副読本「わたしたちの村の村いいたて」は調査をしながら制作しました。子どもも村の人も一生懸命で輝いていて、すごい村だと思っていました。たくさん協力があり、本当にお世話になりました。避難をして、3つの小学校が川俣中学校で一緒に学校生活を送るようになり、学校便りのタイトルを「いいたてっ子」としました。そして私はその年の8月に異動。この赤いポロシャツは、離任の時に保護者の皆さんからい

ただいたものです。離任の日は朝から晩まで泣いていました。その後も迷ったり困ったりした方が、連絡をくれる時がありました。平成27年の福島市での「里帰り会」には、北海道や大阪から来てくれた方もいました。私の実家は浪江町津島にあり、村とは深い縁がありました。私の曾祖父・今野美壽は津島の村長をしていて、退任後に「相馬藩政史」を著しました。この本は「飯館村史」にも多く引用されています。この曾祖父が菅野義人さん(比曾)の曾祖父・雄龍さんと懇意にしている、100年前に曾祖父が書いた手紙を、震災のわずかひと月前に菅野さんから譲り受けていたのです。私はそれをお守りのように校長室の本棚に入れていました。不思議な縁に導かれ、未曾有の危機に立ち向かうため、あの時私が飯館にいたのではないかと運命を感じています。慣れない土地で頑張ってきた子どもたちと今回成人式で再会ができたこと、心から感謝しています。離れていても、私はいつまでも、みんなの応援団です。

交流センター「ふれ愛館」だより

おすすめ図書を紹介します

成人式にて『20歳の20冊』を20歳の皆さんへ贈りました

今年度も一般財団法人出版文化産業振興財団(JPIC)のご協力のもと、『20歳の20冊』の冊子を制作しました。遠藤教育長を始め、各界の著名な方々にも選書をしていただいた20冊を紹介する冊子です。

この冊子に掲載されている本の中から、20歳の皆さんがそれぞれ自分で選んだ1冊を、成人式で贈呈しました(式への出席が叶わなかった皆さんへはお送りしました)。また、この20冊は、交流センターで貸し出しを行っています。新たな本との出逢いのきっかけに、ぜひ手に取ってみてください。

